

令和5年度 第2回 都田南小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年6月12日（月） 14時35分から16時30分まで
- 2 開催場所 都田南小学校 ふれあいルーム
- 3 出席委員 神間 智博、石田 由紀子、長谷川 卓人、牧田 景子、中安 和美、山本 昌美、野末 将秀
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 鵜飼 和生、谷野 文彦、服部 美保
- 6 オブザーバー 教育総務課 牧野氏、都田協働センター 伊藤氏
- 7 傍聴者 0人

8 協議事項

- (1) 校内教育活動について
- (2) 地域との連携について

9 会議録作成者 事務局 服部 美保

10 会議記録

司会の谷野教諭から委員7人全員が出席しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 校内教育活動について

議長の牧田委員から、校内教育活動について、授業参観の感想を含めた意見を委員に求めたところ、以下の発言があった。

・先日の運動会では、児童が元気よく活動する姿が見られて良かった。ただ、保護者の中にはコロナ以前のやり方で実施して欲しかったという意見もあった。（長谷川委員）

・以前のような形で実施したら子供たちの様子をもっと見ることができたと思うが、短時間の中で色々と工夫されていたので、見ていて楽しめる運動会だと思った。（牧田委員）

・運動会では先生方の努力と工夫が感じられた。競技の段取りも良く、素晴らしいと思った。授業参観では、タブレットを併用したハイブリッドな授業を行っていて、教員が、この授業に慣れるのは大変だと思った。しかし、子供たちは、タブレットを上手に使っていて驚いた。また、体育の授業では、6年生がマットで後転する様子を見たが、10年、20年前の子供と比べると、体が硬くなっているような気がした。何か体を柔らかくする取り組みをしたら良いのではないか。（石田委員）

・子供たちが明るい顔で授業を受けていた。これは落ち着いて安心して過ごせているということ。一方で、先生は本当に大変だと思った。授業のための準備をする時間がない。タブレットの導入により、今までと違うやり方をしなければいけない。

学習内容をとっても、今は教科書の内容が難しくなっている。以前は教科書を暗記するだけで良かったが、今は「なぜ」というところを問われる時代である。先生方の負担がとても大きくなってきている。サポートしてくれる人が必要だし、先生の大変さと、こんなに頑張っているんだ、ということを経験者のみなさんが学校外に発信してほしいと思う。(山本委員)

・プール指導について。学校のプールはハード面の維持が大変だと思う。先日のテレビ番組でも、教師がプールのメンテナンスをしていると説明していた。他県では水泳の授業をスポーツクラブに委託する学校もあるようだ。浜松市ではどんな様子か。(神間委員)

・浜松市教育委員会としては特に今までと変わった考えはないようだ。プール指導が始まる前に行うプール掃除をとってみても、職員の数も少ないし時間が掛かるため大きな負担となる。現在は業者に委託している学校も多い。本校もそのようにしている。浜松市全体の水泳大会がなくなり部会ごとの実施になったが、部会の水泳大会も多数の職員が運営している状況であり、今後の実施方法を検討しているところである。水泳授業については、10分の休み時間に段取り良く準備ができるよう教師が工夫し安全第一で取り組んでいる。水道代等の維持費もかかるため、少子化が進む先のことを考えると課題はあると思う。(鵜飼校長)

・授業参観に早めに来たため、児童がちょっとびっくりした様子だったが、「先生、誰かいるよ。」と落ち着いた中にも臨機応変な対応をしていて素晴らしいと思った。発達支援学級についても、児童それぞれのペースで落ち着いて授業に取り組む姿が見られて感心した。(中安委員)

・先日の運動会について。競技終了後、先生が、「都合のつく方は片付けの手伝いをお願いします。」というアナウンスをした後、PTA役員だけでなく児童のお母さんも手伝ってくれて協力的だと感じた。今後も先生方が遠慮することなく保護者に協力の声掛けをしてもらいたいと思った。授業参観では、疑問に思った児童が活発に発言できていた。低学年の下校後の教室が、机や椅子がきちんと整頓されていて、児童が自分でできたのなら素晴らしいと思った。(野末委員)

・水泳授業に先生以外の目が何人かあった方が助かるのではないか。(神間委員)

・見守り協力の話が以前もあったが、来てもらう人を選べないという特性上難しいという話になった。(牧田委員)

・関わってもらう人については、人数ではなく、是非この人に、というお願いの仕方ではないといけないと思う。プールの管理は業者に任せられるが子供の対応となると難しい。(山本委員)

・誰でもどうぞ、という形のボランティア募集しかできないのが難点。プールの見守りは必要なので何か良い方法はないかなと思う。(牧田委員)

・教育の質を上げるには地域の力が必要だとは思いますが、その前に教員の数が増えないのが問題。(石田委員)

・先生は本当に努力している。頑張ってくれている。でも、社会全体が先生という職業をもっとリスペクトしないといけないと思う。(山本委員)

- ・企業と違うのは製品を作っているのではないということ。人を育てているのだから。(石田委員)
- ・教育という仕事は何十年か先になってみないと評価が出ないもの。細切れに支援を考えていてもダメだと思う。このままでは将来、先生のなり手がいなくなることも考えられる。(山本委員)
- ・ボランティアについて。過去の経験から、家庭科授業のサポートは必要だと思う。仕事を引退したおじいちゃん、おばあちゃん世代の手が空いていると思う。そういう人たちの手を借りたら良いと思う。(中安委員)
- ・CSだよりを発行してもなかなか増えないのが現状。今回の募集で保護者から2人、地域から2人が手を挙げてくれただけ。どうしたらそういう人と出会えるのかが分からない。繋いでもらえるにはどうしたらよいか。(牧田委員)
- ・社会福祉協議会で毎週木曜日にふれあいカフェというのがある。(中安委員)
- ・そういった場所には、お互い素性の分かっている人たちが来ている。実際に出向き、交流してみて信頼できる人を見付ける。人との縁でつながりを作れば大丈夫だと思う。(神間委員)

(2) 地域との連携について

牧田委員から、CSだよりの紹介と先生から依頼を受けた授業のサポート業務について説明があった。6年生の夢授業で話をしてくれる人、家庭科のミシンのサポートをしてくれる人を検討していく。次に、アンケートの報告があった。掲示板で児童に何がしてみたいか聞いたところ、全学年で授業以外の事がしたいという声が多く上がっていた。CSとして何か形にできないかと考えている。

委員にアイデアを求めたところ、以下の発言があった。

- ・PTAの都南っ子まつりとコラボできるのではないか。(野末委員)
- ・土曜日授業というのが以前はあった。しかし、先生も来なければいけないから都南っ子まつりが良いと思う。(石田委員)
- ・年に2回PTA主催で子ども講座をやっていたこともある。子供にとっては良いが、準備する大人が大変。(長谷川委員)
- ・PTA主催だと、役員として仕方なく…という人もいたと思う。CSでは、やりたい人が楽しんでやって、子供達にも楽しんで参加してほしい。(牧田委員)
- ・先日の台風3号で、都田川の氾濫注意情報3が出て休校になったが、この辺りは都田川から距離があり、休校にする必要ないのでは？という声があった。(野末委員)
- ・教育委員会から、中学校区で危機管理するようになっている。また、今回の話し合いで学校の先生が頑張っているという温かい言葉をもらい本当に嬉しい。周りにいる人たちが応援してくれているということを職員にしっかり伝える。(鵜飼校長)